

令和３年度

「運営に関する計画」

大阪市立喜連北小学校
令和３年４月

大阪市立喜連北小学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

ここ数年、国語・算数共に「全国学力学習状況調査」の平均正答率が、大阪市・全国の値よりもすべて低い状況にある。特に平成 28 年度・平成 30 年度は、国語 A・B、算数 A・B のすべてが全国平均値より 10 ポイント以上の差となる低い値であった。平成 31 年度は国・算ともに全国平均値から、10 ポイント以上の差にはならず少し縮まったが、依然として正答率は低く無回答率は大阪市・全国平均の値を上回る結果となった。

今後も引き続き、無解答率を少なくすると同時に、正答率そのものが少しでも向上するよう、学力の向上に向けての努力も強化していく。

学力の向上を実現するには、自ら積極的に学ぼうとする姿勢を育成することは欠かせない。そのため、朝読書の更なる充実や、図書館活用の推進などによる図書活動の活性化や、放課後学習や家庭学習の定着などを今まで以上に工夫を重ねていく。

また、学校力 UP 支援事業の有効活用のため、漢字検定を引き続き規模を広げて行うなど、より深化させた取組を推進していく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

ここ数年、安全・安心な学びの場としての学校の構築に全力をつくし、学習環境を整えることで不安感を払拭してきた。努力の成果もあり、不安はやわらいで落ち着きのある安心できる学校になりつつあるが、継続した努力は必要である。

今後も、学校・保護者（家庭）・地域との連携を更に密にすると共に、区役所（福祉・教育担当）・警察（生活安全課・地域課）などの関係諸機関との連携も更に密にしつつ継続して安全・安心な学校の構築を目指す。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

様々な体験的な活動を通して、広い視野のもと、豊かな心の育成を図ると共に道徳教育をはじめさらなる徳育の推進を図り、力強く生き抜く児童の育成に努める。

学力に関しては、先述したように、主体的な学びに重点を置きながら学力向上を図る。

体力に関しては、コロナ禍でも十分に活動ができる環境の確保に努めてはきたが、制約される部分もあったので、さらに創意工夫をこらし、「できること」の幅を広げていく。

今後も「知・徳・体」がバランスよく成長できるよう、工夫し努力を続けていく。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 小学校学力経年調査【校内調査】における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を各学年85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- 年度末の校内調査において、「学校は楽しいですか。」の設問に対して、「すごく楽しい」または「まあまあ楽しい」の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、「学校は、安全で安心だと思いますか。」の設問に対して「とてもそう思う」または「まあまあそう思う」の割合を85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が、市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が、市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査【校内調査】における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点（教育振興基本計画の成果指標）の向上に向けて、一昨年度は特に数値が低かった「上体起こし」「20mシャトルラン」「反復横跳び」の数値を一昨年度の数値より高める。

学校の年度目標

- 年度末の校内調査において、「宿題をわすれていませんか。」の設問に対して、「忘れない」または「あまり忘れない」の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、「天気の良い日は運動場でよく遊びますか。」の設問に対して、「よく遊ぶ」または「まあまあ遊ぶ」の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、「早寝・早起きができていますか。」の設問に対して、「できている」または「まあまあできている」の割合を80%以上にする。

(様式 2)

大阪市立喜連北小 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 全市共通目標（小・中学校） ○ 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査【校内調査】における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を各学年85%以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 学校の年度目標 ○ 年度末の校内調査において、「学校は楽しいですか。」の設問に対して、「すごく楽しい」または「まあまあ楽しい」の割合を85%以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、「学校は安全で安心だと思いますか。」の設問に対して「とてもそう思う」または「まあまあそう思う」の割合を85%以上にする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 「いじめを許さない学級・学校づくり」を理念とし、子どもたちがお互いによく理解し合い、相手の立場に立って考える機会を多く設定する。 また、全ての子どもが自他の尊厳を認め合い、好ましい人間関係や教職員との信頼関係を確立できるような集団づくりに努める。 常に、いじめや問題行動の早期発見に努め、個々のケースに対して、生活指導部を中心に、教職員間の連携を図ると共に関係諸機関との連携を密にするなどして、状況に応じた多様な対応を行う。 (いじめ・問題行動に対応する制度の活用)	
指標 「生活アンケート調査」の実施により、確実に達成状況を確認する。	

取組内容②【施策２ 道徳心・社会性の育成】

人に言われなくても自分から取り組もうとする「主体性」、違いを認め、他の人の気持ちや立場を思いやる「協調性」、よりよいことを目指して工夫する「創造性」が高まるよう、日々の授業や生活場面において繰り返し指導を行う。また、草花など自然に触れる機会や芸術などに触れる機会を多くすることで、豊かな感性や情操を育み、人間としての生き方やあり方を考えさせる道徳教育を推進する。

児童の自己有用感が高まっているかどうかは、児童アンケートなどを通して確かめ、今後の指導に役立てていく。

（ 人権を尊重する教育の推進 ）

人格形成の基礎を培うために、多種多様な芸術の鑑賞や社会見学などの体験活動等を通して、個性・想像力・自己表現力等を育む情操を豊かにし、将来の夢や目標を持つと共に、友達の気持ちや自分との違いも認めて、尊敬・尊重した行動ができる児童をめざす。

（ 音楽・吹奏楽に親しむ機会の創出 ）

指標 校内調査において「自分にはよいところがあると思いますか」の設問に対して「あると思う」または「少しあると思う」と答える児童の割合を75%以上にする。

取組内容③【施策３ 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

読書環境の充実により、読書活動の活性化を図る。朝の読書タイム・図書館開放・ボランティアの方による「おはなし会」などの「読み聞かせ」等を推進する。また、書物の充実にも取り組み、図書館内の環境整備等もすすめることにより、調べ学習の習慣化など、読書好き・読書活動に積極的な姿勢をもつ児童の育成に努め、読書の習慣が身に付くようにする。

特に、読書のつまずきを少なくするために、校内での「読書名人漢字クイズ大会」など、目標を明確化しつつ漢字力を高めていく。

また、平野区より全校の子ども達に配布された「読書ノート」も活用することで、子どもの主体的な学習意欲を育成する。

（ 学校図書館の活性化 ）

指標 校内調査において「読書タイムでは、自分から進んで読書をしようとしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

(様式2)

大阪市立喜連北小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における正答率が、市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における正答率が、市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査【校内調査】における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 年度末の校内調査において、「宿題をわすれていませんか。」の設問に対して、「忘れない」または「あまり忘れない」の割合を85%以上にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、「天気の良い日は運動場でよく遊びますか。」の設問に対して、「よく遊ぶ」または「まあまあ遊ぶ」の割合を80%以上にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、「早寝・早起きができていますか。」の設問に対して、「できている」または「まあまあできている」の割合を80%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>習熟度別少人数授業など、個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。特にすべての教科の基盤である「読み解く力」を向上させるにあたり、個に応じて漢字力を高めるために、漢字検定（級取得）へ挑戦させるなど、明確な目標をもたせる。</p> <p>また、「分かる」「できる」を実感できる授業を工夫・研究し、実践をすすめ、学ぶ意欲の向上により、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。</p> <p>（ 学校力 UP ベース事業： 習熟度別少人数授業など個に応じた指導の充実 ）</p> <p>指標 校内調査において、「授業はわかりますか。」の設問に対して「よくわかる」または「まあまあわかる」の割合を８０％以上にする。</p>	
<p>取組内容②【施策６ 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>子ども達が互いに教え合い学び合う「協働的な学び」や、思考力・判断力・表現力の育成につながる「言語活動」や、「一人ひとりの能力や特性に応じた指導」等を充実させた質の高い授業により、「自分で考え判断する力」、「自分の考えを豊かに伝える力」、「ＩＣＴ機器を活用する力」等を育成する。</p> <p>（ ＩＣＴを活用した教育の推進 ）</p> <p>指標 校内調査において、「タブレットを楽しく活用していますか。」の設問に対して「活用している」または「まあまあしている」の割合を８０％以上にする。</p>	
<p>取組内容③【施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>子ども達が運動やスポーツに楽しく参加できる取組・企画を計画実施するなど、運動やスポーツに親しむ機会を確保する。</p> <p>（ 子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実 ）</p> <p>指標 校内調査において、「運動場でよく遊びますか。」の設問に対して、「よく遊ぶ」または「まあまあ遊ぶ」の割合を８０％以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点